

切り株の年輪を数える参加者＝東近江市



撮影・吉川宏輝氏

淡海たより 平尾由里子 ⑤

52歳の株再生するかな？

11月の活動日。森の中は上を見ても下を見ても赤、黄、オレンジ……。色の洪水。紅葉の季節です！

今回は高島市にある「いきものふれあい室」の観察会が開かれ、里守隊は伐採や玉切り、薪割り指導で協力しました。伐採する木を選ぶため森の奥に入ると枯れたコナラが2本。「ナラ枯れ」被害のようです。近年全国的な問題になっているナラ枯れ。原因となるカシノナガキクイムシは、高齢の大きな木を好みます。そのため対策のひとつが、萌芽更新による森の若返りです。

暮らしに薪や炭が必要だった頃、人はある程度若い木を伐って利用していました。元気な木の切り株からは新芽が出て、再び大きな木に育ちます。これを萌芽更新といい、森の資源を根こそぎ取ることなく、森を再生しながら恵みを分けてもらう方法なのです。人が里山を利用しなくなり、高齢木が増えたことでナラ枯れも増えてきたと言われています。さて、枯れたコナラを伐採し、みんなで年輪を数えました。「52歳だ」と誰かが言いました。くしくもこの日は里守隊長の52歳の誕生日。「隊長、同じ年ですよ！」思わず叫ぶと、「そつか、枯れても仕方ないな」としんみりした返事。しまった、余計なことを言つたかも。

「この株、再生するかな」と言う隊長に、「もちろんですよ！ まだ52歳ですもん」と答えましたが……。どうか来年、元気な若芽が出ますように。あ、伐採したコナラは、みんなの手で良い薪に生まれ変わりましたよ。

(NPO法人愛のまちエコ俱楽部職員)